



三上 園子

勤務先：

(株)ルーラルエンジニア
〒001-0010 札幌市北区
北10条西3丁目13番
NK エルムビル

TEL 011-726-2411

FAX 011-757-2701

E-mail : s_mikami@rural.co.jp

専門：農業部門（農村環境）

1. 自己紹介

私は、主に農業農村整備事業の調査・計画・設計を行っているコンサルタント、(株)ルーラルエンジニアに所属しています。

会社では、資源経済分野の事業計画作成や農村環境分野の調査・計画を担当しています。

入社当時は、農業基盤整備事業の経済効果算定に始まり、地域農業振興の調査・計画などにかかわっていました。しだいに世の中の環境への関心が高まり、環境に配慮した事業計画や地域環境の方針を定める農村環境計画などの業務が増え、これらに携わるようになりました。現在では、農村環境関係の業務の重要性は認められつつありますが、まだ十分とはいえません。しかし今後は関連する業務の増加が期待される分野と思います。

このような状況の中で、技術士の資格は、技術者として最も権威のある資格でもあり、技術力が客観的に評価されるため、コンサルタント技術者として発注者から信頼を得ることができ、新たな分野の業務を進めるためには必要な資格と考えました。また、より一層の誇りと自覚を持って業務に当たることができることも考え資格取得に挑戦しました。

2. 専門分野～農村環境について

北海道は、国内の食料の主要生産地です。生産基盤の整備も進んでおり、また、自然も豊かです。農家の人たちと話すとき農村景観や、グリーンツーリズム

を楽しむなどしている姿も伝わってきますがまだ十分ではありません。自然や生産、生活が複合して成り立っている農村環境が調和をもって発展するような仕事をしたいと思っています。

農業においてもこれまではどちらかというと生産性が重視されてきました。しかし、農村のもつ豊かな自然環境や景観が見直されつつあり、農業・農村の持つ多面的機能の発揮が求められるようになってきました。農業と農村は、良好な農村環境を保全しながら、安全で良質な食料を国民に供給していく必要があります。

しかし、農地があって農業生産が行われていれば、肥料分や農薬の流出など周辺の環境に負荷を与えるおそれがあります。これは営農方式を環境保全型にかえていくことや、農地の周りを緩衝帯で囲むことなどで周辺への負荷を少なくすることができます。堆肥など有機性資材の投入や、合理的な作付体系、資材やエネルギーの循環利用を進めていくこと、農地や森林や市街地がそれぞれよい状態に保たれる土地利用にかえていくことで、環境への負荷の少ない農業を推進することができると思います。

また、農村の環境は、生産方式のほかにも住民の日常生活や手入れが直接に反映されるものです。良好な農村環境を形成するには、住民の意識を高めつつ、多様な評価の中での合意を形成して進めていく必要があります。

このように農村環境の形成にあたっては課題も多いのですが、それぞれの地域性を生かしてより良い方向に改善し、住んでいる人も訪れる人にも農村の良いところを感じてもらえるような北海道の農業・農村が形成されたいと思います。

3. 今後の抱負

技術士は、高い倫理意識と高度な専門的技術力を持って社会貢献することが求められます。

これまで以上に社会的責任が重くなることを自覚し今後も業務を行い、また、より高度な技術的判断ができるよう関連分野の学習をしていきたいと思えます。